

～TANKYU～

谷地南部小学校

校内研究だより

2022.12.23

No.49 文責 伊藤

5年生に学ぶ

2学期末、秀樹先生が体調不良により何度か教室を空けることがありました。しかし、5年生の学習はいつも通りに進んでいました。一体なぜなのでしょう。もちろん、五十嵐先生のご尽力や担当外の先生方のサポートがあったのだとは思いますが、私はそれだけではないような気がします。

5年生が担任不在の中で学習を進められた理由、それは「(単元内)自由進度学習」への取り組みが活発に行われているからだと思います。また、5年生では「一部個別時間割制」も取り入れられています。つまり、子どもたち自身が学習の内容・進度・教科等をプランニングして、コーディネートして進められる環境が整っているということになります。校長先生が昨年度からおっしゃっていることを、まさに実践されているということですね。

この取り組みを進めていくメリットは何でしょう？私が考えるには、4つのメリットが思い浮かびます。

一つ目は、「計画性が身につく」ことです。自分で自由に学んでいくことで、子ども達が計画的に、順序立てて学習を進めていく必要があります。子ども達は、自分の責任の下に学習を進めていかなければならなくなります。数時間後の単元末には評価テストがあるでしょう。点数が取れなかったり分からなかったりして困るのは自分です。様々な事情で、出来るだけ良い点数を取ることができるよう必死に取り組むようになると思います。

二つ目は、「自分に合わせた学び方が選択できる」ことです。朝から算数をしたくない子もいれば、苦手な教科を早く片付けて楽しみを残しておきたい子もいるでしょう。また、一人で学習したい子と友達と一緒に学びたい子、教科書で学びたい子とオンライン教材等で学びたい子など、様々な形があると思います。そういったことに対応し個別最適化を図るためには、これまで通りの「一斉授業」や「クラス内同進度学習」では限界があります。

三つ目は、「教員の負担軽減(働き方改革)」です。もちろん教材研究が不要になるわけではありませんし、個別の必要感に合わせた教材・教具(必ずしも教えるわけではないので、この言い方も違うような気がします…)の準備は、これまで同様に必要だとは思いますが。しかし、絶対数は減ると思うので負担は減るのではないかと思います。他の仕事をしたり早く帰ったりすることもできるかも。

最後に、「個別指導(支援)の一層の充実」です。クラスの中で、全員が指導者の支援を求めているかと言えばそうではありません。一斉授業では何となく払っていたその注意力も、本当に必要な児童に全て注ぐことができます。同じ仕事量で、より効果的に学力向上が望めそうな気がします。

もちろん全て任せっきりというわけではなく、ポイントを見て刺さっていかねばいけない部分もあると思います。しかし、時代が変化している中で、我々の仕事の仕方も変化することが求められているのではないのでしょうか。『変える』ことって、エネルギー使いますけどね。